

まほろばだより

第46号

● Contents ●

- Report1 第12回女性研究者学術研究奨励賞 授賞式・受賞講演
- Report2 本学教員の競争的資金獲得割合
- Report3 男女共同参画に関する授業の実施
- Information 1 第13回女性研究者学術研究奨励賞募集
- Information 2 性犯罪の規定変更(法務省資料)

Report
1

第12回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました



7月3日、第12回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を執り行いました。第12回は、消化器・総合外科学講座の松尾泰子助教が受賞の栄冠に輝きました。授賞式には消化器・総合外科学講座の庄雅之教授をはじめ教室の先生方ならびに関係者の方々が多数出席されました。細井裕司学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、松尾先生が「大腸癌肝転移におけるCD200発現の臨床的意義の解明と新規治療法の開発」について講演されました。



【松尾泰子先生のコメント】

この度は第12回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。本研究の成果は、当教室の諸先輩方がこれまでに蓄積された腫瘍免疫に関する研究の成果を経て得られたものです。ご指導いただきました庄雅之教授はじめ、教室の先生方には心より感謝申し上げます。また、受賞にあたり御支援いただきました女性研究者・医師支援センターの皆様にも感謝申し上げます。今回の研究テーマである進行大腸癌は未だ根治が難しいため、一人でも多くの患者さんを救えるよう引き続き研鑽を積んで参ります。



Information
1

第13回女性研究者学術研究奨励賞募集

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

次回、第13回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内予定です。対象者は、本学の女性教員(教授を除く)、医員、博士研究員、特別研究員、大学院生です。過去の受賞者一覧および研究テーマは、当センターHPに掲載しています。数多くの女性研究者からのご応募をお待ちしています。

<https://josei.narmed-u.ac.jp/activity/training/index.html>

当センター HP/女性研究者育成▶



本学教員の競争的資金獲得割合

現在多くの大学にとって外部資金獲得及び財源の多様化は重要な課題となっています。外部資金獲得において最も一般的なのは競争的資金の獲得です。以下に示す競争的資金とは、文部科学省科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費補助金及び厚生労働行政推進調査事業費補助金、日本医療研究開発機構研究費です。

表1 専任教員数及び競争的資金獲得教員数(令和5年7月1日現在)

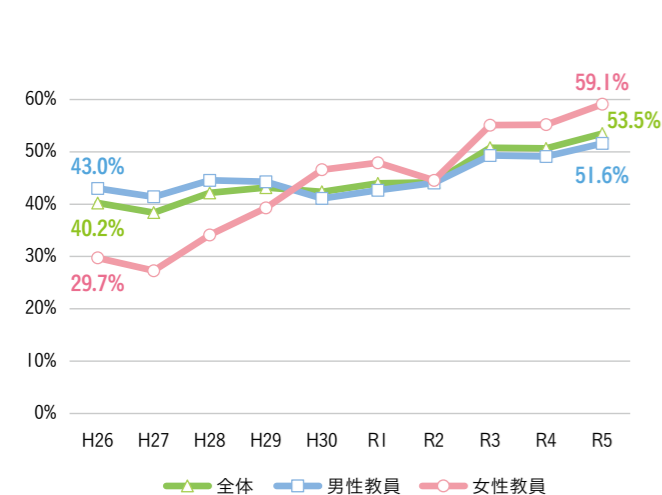
	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	18	3	39	16	221	45	5	29	283	93
	21		55		266		34		376	
獲得教員数(人)	7	3	32	12	104	22	3	18	146	55
	10		44		126		21		201	
獲得教員割合(%)	38.9%	100.0%	82.1%	75.0%	47.1%	48.9%	60.0%	62.1%	51.6%	59.1%
	47.6%		80.0%※		47.4%		61.8%		53.5%	

※ p < 0.05 基礎医学系 VS 教養教育/法人・大学、臨床医学系

今年度、競争的資金を獲得した専任教員は201人で、獲得教員割合は53.5%(376人中201人)と過半数を超えています(表1)。平成26年度以降、獲得教員割合は着実に増加しており、3年連続で50%以上となっています(図1)。

部門別では、基礎医学系の獲得割合が80.0%(55人中44人)と本学では最も高く、教養教育/法人・大学の47.6%(21人中10人)、臨床医学系の47.4%(266人中126人)と比べて有意に高い結果でした(表1)。

図1 男女別競争的資金獲得教員割合の推移



男女別では、男性教員の獲得割合が51.6%(283人中146人)、女性教員の獲得割合が59.1%(93人中55人)と男女間に有意な差は認めませんでした。平成26年度以降、女性教員の獲得割合は明らかに増加しており、平成30年度からは女性教員の獲得割合が男性教員を上回っています(図1)。これら女性教員の研究力向上は、当センターを含め法人全体で取り組んできた女性研究者・医師に対する支援活動の成果と思われます。

図3 臨床医学系教員の男女別獲得教員割合の推移

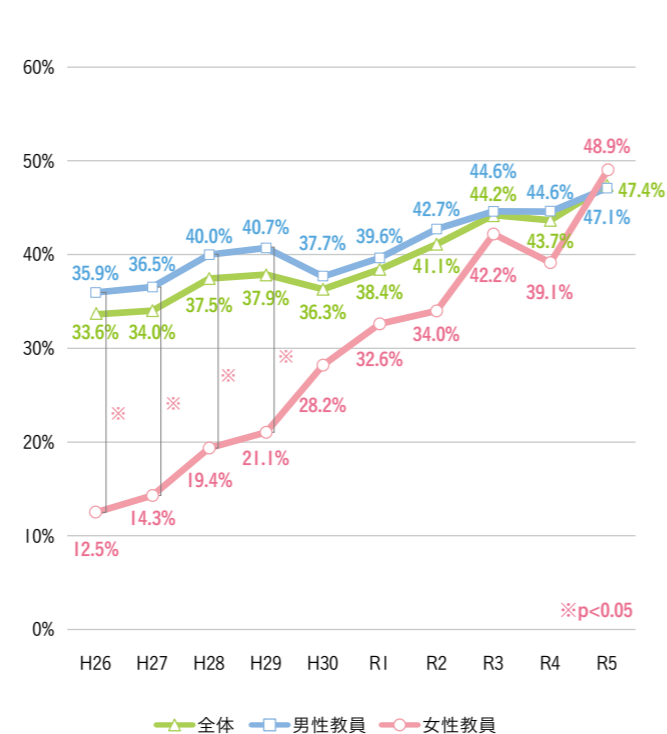
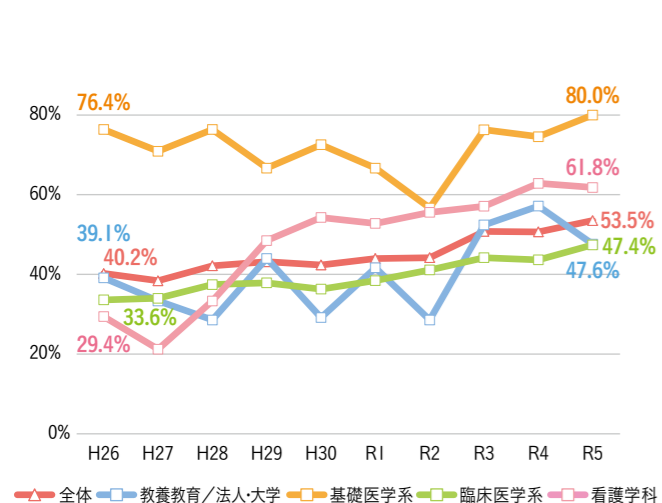


図2 部門別競争的資金獲得教員割合の推移



基礎医学部門は、データのある平成26年度以降、競争的資金を獲得している教員の割合が本学で最も高く、今年度も80.0%の教員が競争的資金を獲得しています(図2)。科研費の新規採択割合(表2)も55.6%と過半数を超えており、教養教育/法人・大学部門や臨床医学部門と比べて有意に高い結果でした。また、複数の教員が在籍する教室の中で、**全教員が競争的資金を獲得している教室**は、基礎医学部門の8教室(第一生理学、第二生理学、生化学、病原体・感染防御医学、微生物感染症学、疫学・予防医学、公衆衛生学、法医学)と化学、成人慢性期看護学、精神看護学、在宅看護学の12教室であり、基礎医学部門が大部分を占めています。

臨床医学系教員の競争的資金獲得割合は、基礎医学系教員と比べると有意に低い47.4%ですが、平成26年度以降、着実に増加しています(図3)。特に臨床系女性教員の獲得割合は、平成26年度の12.5%から今年度は48.9%と飛躍的に増加しています。臨床医学部門でさらなる競争的資金獲得のためには、本学最多の44人にのぼる男性教員の科研費不申請(表3)を減少させること、ならびに男女教員とも科研費新規採択割合を高めていくことが重要です。一方、臨床業務多忙の中で研究業績を伸ばしている教室も多く、耳鼻咽喉・頭頸部外科学(在籍教員の競争的資金獲得割合80%)、口腔外科学(同75%)、リハビリテーション医学(75%)、産婦人科学(66.7%)、病理診断学(66.7%)、放射線診断・IVR学(66.7%)、消化器・総合外科学(64.3%)、精神医学(64.3%)、脳神経内科学(62.5%)、泌尿器科学(60%)、麻酔科学(60%)の11教室は、過半数を超える教員が競争的資金を獲得しています。

看護学科の競争的資金獲得教員割合は61.8%と本学で2番目に高く、平成26年度と比べると獲得教員割合は2倍以上に増加しています(図2)。多くの看護学科教員が教育業務多忙の中、研究業績を伸ばしています。さらなる競争的資金獲得のためには、臨床医学部門と同様、科研費新規採択割合を高めていくことが重要です。

表2 教員申請科研費の新規採択割合(令和5年7月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
申請件数(件)	10	0	22	5	109	28	1	13	142	46
	10		27		137		14		188	
採択件数(件)	1	0	13	2	33	8	0	3	47	13
	1		15		41		3		60	
採択割合(%)	10.0%	-	59.1%	40.0%	30.3%	28.6%	0.0%	23.1%	33.1%	28.3%
	10.0%		55.6%※		29.9%		21.4%		31.9%	

※ p < 0.05 基礎医学系 VS 教養教育/法人・大学、臨床医学系

表3 科研費不申請教員割合(令和5年7月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	18	3	39	16	221	45	5	29	283	93
	21		55		266		34		376	
不申請教員数(人)	4	0	1	0	44	5	1	3	50	8
	4		1		49		4		58	
不申請教員割合(%)	22.2%	0.0%	2.6%	0.0%	19.9%	11.1%	20.0%	10.3%	17.7%※	8.6%
	19.0%		1.8%		18.4%		11.8%		15.4%	

※ p < 0.05 男性教員 VS 女性教員

今年度の科研費不申請教員(令和4年9月時点で本学に在籍し、令和4年度末に科研費による研究期間が終了する教員の中で、新たに科研費申請をしなかった教員)の割合は15.4%(男性17.7%、女性8.6%)でした(表3)。大部分の教員は科研費を適切に申請していますが、男性教員の不申請割合が女性教員と比べて有意に高くなっており、男性教員の積極的な申請が望まれます。

女性研究者・医師支援センターでは、今後も女性研究者のさらなる競争的資金獲得増加を目指して、様々な研究支援を行っていきたいと思います。今年度の競争的資金獲得に関する詳細なデータは当センターHPでも公開していますので是非ご覧ください。

男女共同参画に関する授業の実施

「奈良県の男女共同参画」

講師：奈良県こども・女性局女性活躍推進課 森田俊子課長

9月4日(月)医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」において、奈良県こども・女性局 女性活躍推進課の森田俊子課長に奈良県の男女共同参画についてご講演いただきました。行政が女性の就労支援、父親の育児参加促進、子育て応援、性暴力への対策に取り組んでいることをわかりやすくご説明くださいました。学生たちは、奈良県の男女共同参画の取組を知る良い機会になったと思います。



講師：森田俊子課長

性犯罪の規定変更

刑法及び刑事訴訟法の一部を改正する法律

不同意性交等罪・不同意わいせつ罪(改正)

2023年(令和5年)7月13日から施行

以下の1又は2によって、

性交等(※1)をした場合、不同意性交等罪【5年以上の有期懲役】

わいせつな行為をした場合、不同意わいせつ罪【6月以上10年以下の懲役】が成立(※2)

1 ①～⑧のいずれかを原因として、

同意しない意思を形成、表明又は全うすることが困難な状態にさせること、あるいは相手がそのような状態にあることに乗じること

① 暴行又は脅迫

② 心身の障害

③ アルコール又は薬物の影響

④ 睡眠その他の意識不明瞭

⑤ 同意しない意思を形成、表明又は全うするいとまの不存在 …………… 例：不意打ち

⑥ 予想と異なる事態との直面に起因する恐怖又は驚愕 …………… 例：フリーズ

⑦ 虐待に起因する心理的反応 …………… 例：虐待による無力感・恐怖心

⑧ 経済的又は社会的関係上の地位に基づく影響力による不利益の憂慮

……………例：祖父母・孫、上司・部下、教師・生徒などの立場ゆえの影響力によって、不利益が生じることを不安に思うこと

2 わいせつな行為ではないと誤信させたり、人違いをさせること、又は相手がそのような誤信をしていることに乗じること

※1「性交等」には、性交・肛門性交・口腔性交のほか、膣や肛門に、陰茎以外の身体の一部又は物を挿入する行為も含まれる。

※2 不同意性交等罪・不同意わいせつ罪は、配偶者やパートナーの間でも成立する。

出典：法務省ウェブサイト (https://www.moj.go.jp/keiji1/keiji12_00200.html) より一部抜粋

詳細は法務省HPをご覧ください



法務省HP ▶

[編集後記]

令和5年度は、臨床医学部門において女性教員の競争的資金獲得割合が調査開始以来初めて男性教員の割合を上回り、約半数の女性教員が競争的資金を獲得するという嬉しい結果を得ました。センターではこの夏も女性研究者(臨床系教員4名、診療助教2名、基礎系教員1名、看護学科教員1名)に科研費の申請支援を行いました。来春、1人でも多くの女性研究者が競争的資金を獲得されますようセンター一同祈っております。

マネージャー 須崎康恵

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840

奈良県立医科大学 基礎医学棟5階

TEL: 0744-23-8011(直通)

0744-22-3051(代) 内線: 2525

E-mail: jshien@narmed-u.ac.jp



ここに